

～教育政策について～

教育の政策についての方針ですが、市長は我々との懇談でこれからは子供にお金を使うと繰り返しておられたのに、項目としては、保育園、幼稚園のあり方の検討、待機児童の解消、学力テスト、安全対策、耐震化、エアコン設置、教職員人事権の移譲程度しか挙がっておらず、教育の維新を掲げた市長の政策がこれだけかと驚きます。2年目にしてこの程度の方針ですから、市長は教育については御理解がないか、思いが大きくないことがよくわかりました。

その前提で、挙げられた項目について幾つかお聞きします。

①幼児教育について

まず、市長は、保育園や幼稚園のあり方を考えるとき、幼児教育において大切にしなければならないもの、幼児期に子供たちがしっかり身につけないといけないものは何だと考えておられるのか、なるべく詳しくお答えください。

(赤松祐子児童部長)

幼児教育において大切にしていることにつきまして、保育所では、子供が生涯にわたる人間形成にとって極めて重要な時期に、その生活時間の大半を過ごす集団の場にあります。十分に養護の行き届いた環境の中で、生命の保持及び情緒の安定を図ることが求められています。基本的な生活習慣や態度を養い、心身の健康の基礎を培い、人とかかわりの中で、人に対する愛情と信頼感、そして人権を大切にする心を育てるとともに、自立、協調の態度を養い、道徳性の芽生えを培っています。

保育の具体的な場面では、安定した人間関係の中で、年齢に応じた遊びを通し、人との関係づくりができ、自分が好き、友達が好き、先生が好きと思える子供を目指しております。

また、子供たちが群れて遊ぶ中でトラブルも経験しながら社会性を育て、自立した生活の基盤となる食事や排せつ、衣服の着脱などの生活習慣を身につけることを大切にしております。

(松井静子教育監)

学校教育部にいただきました御質問について、市長にとのことですが、まずは私からお答え申し上げます。

幼児教育についてでございますが、教育は、子供の望ましい発達を期待し、子供の持つ潜在的な可能性に働きかけ、その人格の形成を図る営みでございます。

幼児一人一人が持つ可能性は、日々の生活の中で出会う環境によって開かれ、環境との相互作用を通して具現化されていきます。そのため、幼稚園では、幼児の生活や遊びといった直接的、具体的な体験を通して、人とかかわる力や思考力、感性や表現する力などを

はぐくみ、基本的な規律を身につけながら、これからの社会をたくましく生きていくための基礎を培うことが大切だと考えております。

また、幼児期の子供たちがしっかり身につけておかないといけないものとしたしましては、基本的な生活習慣、集団生活に喜んで参加する態度、家族や身近な人への信頼感、自分の思いを伝え、相手の話を理解しようとする態度、身体的諸機能の調和的発達を図ることなどが重要と認識しております。

(井上哲也市長)

幼児教育についてであります。幼児期は人間形成の基礎を培う重要な時期であり、すべての子供が一人一人の人格や個性を尊重され、豊かな人間性がはぐくまれるよう、子育て支援を含め取り組みを進めてまいります。

(再質問)

幼児期における教育の重要性についてであります。保育園と幼稚園で別々に答弁が来たということに、非常に驚いております。当然所管する省や部が違いますから、方針が少しの違いはあってもいいと思いますが、しかし子供から見ると、3歳から5歳までは幼稚園に行こうか、保育園に行こうか、全く同じであると考えております。

1点、簡単でよろしいです。わかりやすく教えていただけますようお願いいたします。保育園児と幼稚園児、この3歳から5歳の間に重要な、必要な教育は、市長は何とお考えでしょうか。方針を決めるのは恐らく市長であると考えてるので、市長の明確なわかりやすい答弁を求めます。よろしくをお願いいたします。

(井上哲也市長)

幼児教育についてであります。教育委員会も児童部も同じ答弁をさせていただいているんですが、私からも再度御答弁を申し上げます。

幼児教育についてであります。幼児期は人間形成の基礎を培う重要な時期であり、すべての子供が一人一人の人格や個性を尊重され、豊かな人間性がはぐくまれるということが大切だと思っております。

②教育人事権の移譲について

次に、教職員人事権の移譲を進めることのメリットと、移譲が成功した後に具体的にどのような政策を進めていこうとお考えか、その2点について市長のお考えをお聞かせください。

(松井静子教育監)

次に、教職員人事権の移譲についてですが、教職員人事権の移譲を進めることのメリッ

トといたしましては、地方分権の視点を学校づくりにも応用することにより、地域に根差した質の高い公教育の創造に向け、分権改革としての大きな動きになると考えております。

権限が移譲された後には、受け皿としての三島地区各市町と採用事務や人事交流などの制度設計を行うことや、独自の賞罰規定や法定研修など共同し実施する内容について取り組み、あすの吹田を担う子供たちを責任を持ってはぐくみ、市民の信頼と期待にこたえる学校づくりを進めてまいります。

(井上哲也市長)

教職員人事権の移譲についてでございますが、保護者、市民の教育に対する信頼と期待により一層こたえるため、有為な人材を確保し、吹田固有の制度設計を行ってまいります。

③お弁当の日という施策について

我々吹田新選会が教育において強く訴えていることは、福沢諭吉が学問のすすめで説いたような、国民や市民が一人一人自立し、冒頭の論文でも指摘された国民がみずからのことはみずからの力で解決するという自立の精神と気概を失わないことにも共通します。この考えは、公共施設や市民サービス、住民自治、福祉事業のあり方にもかかわる大変大切なテーマであると考えます。このような自立の気概と精神は、市長や教育監がおっしゃる生きる力の根本であり、小、中の義務教育においてこれをはぐくむことが教育機関の責任であると考えます。

先日お弁当の日を始められた竹下和男先生の講演が保健センター主催で行われました。お弁当の日とは、小学5年生から中学3年生までの児童が、自分でつくったお弁当を持ってくるという取り組みです。お弁当の準備を親が一切手伝わず、子供が自分自身で献立を考え、材料をそろえ、調理をし、弁当箱に詰め、後片づけまでするのであります。

平成22年3月定例会において新選会は1度提案しておりますが、このお弁当の日は、子供たちの教育という目的だけでなく、子供たちを取り巻く環境、家庭や地域、ひいては日本という社会を変えたいという思いの詰まった取り組みであり、再度提案させていただきます。

竹下先生は、お弁当の日によって六つのこと、子供たちが食べ物の命をイメージできるようになる、子供たちの感性が磨かれる、人に喜ばれることを快く思うようになる、感謝の気持ちで物事を受けとめられるようになる、世界を確かな目で見詰められるようになる、そして一家団らの食事が当たり前になることを目指されています。

子供たちは、お弁当をつくる中で想像力の基礎となる感性が磨かれるとともに、食事をつくることの大変さを実感し、毎日の食事や食材、家族や生産者等への感謝の心を持つようになるだけでなく、みずからの行動で人の役に立つ喜びを覚えるなど、たくさんのお手紙を手に入れます。また、自力でお弁当をつくり成長する子供たちとかわることで、家族

や教師、地域も影響を受け、家庭においては一家団らんの食事の場という子供にとって最も大切な教育の場も実現される可能性もあります。

お弁当の日には、このように生きる力を培うための教育的要素のみでなく、私たちの想像を超えるような大変よい影響を市民全体に与える可能性があり、我が市でもぜひ取り組むべきであると考えます。

このお弁当の日は、現在急速に広まり、大阪府では松原市が、全国では47都道府県832校で行われています。前回提案させていただいた際には、実施のデメリットは少ないとのお答えもいただいておりますので、我が市でもお弁当の日を実施すべきではないでしょうか、市長及び教育委員の見解をお聞かせください。

(松井静子教育監)

お弁当の日の取り組みについて、市長及び教育委員にとのことですが、まずは私からお答えいたします。

本市においてお弁当の日の取り組みは行われておりませんが、この取り組みを通じて食の大切さについて意識が高まるのみならず、子供たちが自立し、家庭生活をよりよくしようとする実践的な態度が培われるなど、生きる力の育成が期待されます。

現在、多くの小学校では、6年生の家庭科の授業において、中学生になる自覚を持たせるとともに、栄養バランスを考えたお弁当づくりに取り組んでいるところです。

お弁当の日を実際に取り組むとなると、それぞれの子供の家庭状況等への配慮も含め検討することとなりますが、PTAと実施に向けて協議を始めた学校もあり、今後吹田市の食育推進の一環として進めている「一食つくれる吹田っ子」の育成につながることから、先進事例を参考にしながら研究してまいります。

(小谷泰教育委員会委員)

教育委員会は合議制でございますので、私見となりますが、お答えさせていただきます。

私は小児科医でございますので、食育を推進するという観点から、やはり子供たちが食について関心を持つということは、非常に大切なことだろうというふうに思っております。そして、特に栄養バランスの問題などは、将来の生活習慣病の予防につながるということもございますので、やはりこのお弁当づくりを通しまして考えるという姿勢を身につけることは、非常に大切なことだろうというふうに思っております。

それから、またお弁当づくりをすることによりまして、毎日の食事の大切さとか、あるいは家族の大切さ、あるいは協力者、周りの者への感謝の心というようなものが芽生えてくれば、これは非常にいいことだろうというふうに思っております。

そういうことで大変にいいことだろうというふうに私は思っておりますので、ただ問題は、これから学校現場とそれから保護者といろいろな話し合いをして、どのような方法が可能であるのかということ、その取り組みについてこれから検討していく必要があるだ

ろうなというふうに思っております。

(井上哲也市長)

お弁当の日の取り組みにつきましては、先ほど教育委員会のほうから御答弁をさせていただきましたが、その判断については教育委員会のほうでされるものと存じております。